

短期語学研修における学生の意識と実態

——中国天津師範大学の場合

別 府 直 苗

三重大学は、天津師範大学との交流協定に基づいて短期語学研修&文化交流を実施しているが、その事業を通して、学生たちは実際何を考え何を学び取ってきているのであろうか。その意識と実態について、第1回と第2回の語学研修に参加した学生たちの研修レポートから明らかにしようとしたものが本報告である。広大な中国を目の当たりにした学生たちが、語学研修を通して価値観の多様性に触れ、視野を広げていく様子が分かり、この研修事業がいかに意義深いものであるかが感得されるものと思われる。

キーワード：中国、天津師範大学、語学研修、文化交流、価値観

はじめに

三重大学と中国天津師範大学との交流協定に基づいて、2003年度から毎年春3月に天津師範大学において2週間の語学（中国語）研修&文化交流が行われている。第1回目の参加者は教育学部のみ8名（男2名・女6名）（1年目は学部間協定であり、2年目から全学協定に発展）であったが、第2回目の参加者は、人文学部13名、教育学部4名、工学部1名、生物資源学部1名の計19名（男1名・女18名）と大幅に増加した。そこで、参加した学生たちの意識と実態について、この短期研修の魅力・意義・成果に焦点を当てて、学生の研修レポートから検証してみることにする。

1 中国天津師範大学はどんなところか

A 学習環境・教育設備・生活環境

A-a 学習環境

○学習環境はとても良い。北京のような都会ではなく、アットホームな雰囲気なので、勉強するには最適の環境だと思う。（1回生1名／2回生4名）

○大学の第一印象は、広いということである。（1回生1名／2回生1名）

A-b 教育設備

○授業を受ける校舎は、エレベーターもなく若干古い印象を受けるが、リスニングの部屋は1人1台ヘッドホンがあり、リスニングに集中できる環境が整っていた。（2回生2名）

○教室は、日本と変わらずきれいであったが、トイレが1つしかないため並んだり他の階にまわったりして多少の不便を感じた。（2回生2名）

○授業を受けていた建物ではトイレが汚くて座れなかったほどである。（1回生2名）

○教室は20人ほどが入れる広さで、アットホームな感じがした。（2回生）

○教室はクラスによってそれぞれで、設備に差があった。壊れた椅子に座らざるをえない学生もいた。（1回生）

○図書館は閉館時間が早く、自習室が小さかったのでも満席状態であった。（2回生）

A-c 生活環境

○大学内に売店やパン屋があり、基本的に必要なものは大学周辺ですべて揃う。（1回生2名／2回生3名）

○大学内はとても活気に溢れていて夜遅くまで多くの人が学内を歩いていることに驚いた。（1回生1名／2回生3名）

○学生はみんな夜まで教室で勉強していたり、グラウンドで運動していたりと、思い思いに充実した時間を過ごしているようであった。（1回生1名／2回生1名）

○学内にある学生食堂は非常においしいと思う。（1回生2名）

○近辺には書店やCD店もある。（1回生）

○学生食堂は最後までうまく利用できなかった。まずメニューが読めないし、見た目だけで選ぶと味の当たり外れもあった。（2回生）

B 宿泊施設

○宿泊施設は非常に豪華で、2人で使っても十分広く、非常に快適だった。部屋は清潔だし、暖房器具もある。トイレもきれいだし、デスクやスタンドも設置されていた。（1回生4名／2回生13名）

○宿泊施設はとてもきれいで、施設内に売店があり水な

どがすぐ手に入るのであまり不自由さを感じることはなかった。(1 回生 6 名／2 回生 8 名)

○要望を言うとすれば、学習のために部屋に明るい照明があればよかった。勉強するときに手元が暗くて困った。(1 回生 1 名／2 回生 5 名)

○トイレトペーパーが配布されなかったことが少し困った。しかし、1 個 1.2 元ぐらいで買えたので、問題なし。(1 回生 1 名／2 回生 2 名)

○部屋用にスリッパを持って行ったほうがよいと思う。(あるとくつろげる。私は持って行った。)(1 回生 1 名／2 回生 1 名)

○去年の体験談ではお湯が出にくい時間帯があるということであったが、今年はそのようなことはなく、快適に過ごせた。(2 回生 11 名)

○ホテルのサービスとして、ごみの回収、ベッドメイキングがあるが、必ずしも毎日ではない。特にベッドメイキングはあまり期待しないほうがよい。(2 回生 4 名)

○お風呂の水が黄色いことや温度調整が難しいこと、時間帯によってはお湯が出ないことが少し難点だったと思う。ポンプが壊れたり、沢山の人が一度に使ったりするとお湯が出なくなることはよくあるそうなので、朝や夕方など人と時間をずらしてお風呂に入るのがベターだと思った。(1 回生 3 名)

○トイレに紙を流さない習慣がある。詰まってしまう恐れあり。(2 回生 3 名)

○説明会で持って行ったほうがよいと言われたハンガーやスリッパなどはとても役に立った。(2 回生)

C 学生・教師・留学生

C-a 学生

○日本語学科の学生と交流したが、とても好意的であった。夜の 10 時半まで開いているという校舎では実際に 10 時半まで明かりを灯して勉学に勤しむ学生の姿が毎晩見られ、ほんとうに勤勉な学生が多いと思った。(1 回生)

○日本語学科の学生によると、授業以外に自分で 8 時間近く勉強しているときもあり、その一方で朝まで友達とカラオケを楽しむこともあるという。(2 回生)

○中国の学生は大学の寮で生活している人が多いらしく大学で生活用品等すべてそろそろ。お湯を汲みに来る学生の姿をしょっちゅう見た。(2 回生)

C-b 教師

○教師については、親身になって下さる先生ばかりであった。ほとんど中国語を話すことのできない私たちに、休み時間を割いて発音練習に付き合ってくれたり、クラスに馴染めるよう努めてくれた姿には思わず胸に熱いものがこみ上げた。(1 回生 1 名／2 回生 3 名)

○教師は皆親しくしてくれ、とても親切だったので楽しく過ごすことができた。(1 回生 2 名)

○教師の話す中国語はゆっくりできれいな発音だったので、留学生にはとても分かりやすく 1 週間もあれば次第に慣れていく。ただ、外に出た途端一般の人の中国語が聞き取れなかったのにはショックを覚えた。(2 回生)

C-c 留学生

○韓国からの留学生が多い。(1 回生 1 名／2 回生 1 名)

○他の留学生とも本当に仲良くなれた。(1 回生 1 名／2 回生 1 名)

○留学生の 8 割以上が韓国からの学生であり、大学内で韓国人が多いのはもちろん、それに伴って周辺の飲食店なども韓国の店が多かった。次いで日本人、イギリス人やアメリカ人という構成のようである。みんなで仲良くやっていこうという雰囲気があり、とても和やかであった。留学生同士の、特にクラスのつながりは強く、週末にはみんなでご飯を食べに行ったり遊びに行ったりしているようである。(2 回生)

○授業が一緒だった他国の留学生たちとの交流で、最初の頃は、言葉が通じないということが大きな障害のように思えたが、身振り手振りで思いが伝わることに喜びを感じるようになってからは、言葉の壁をあまり考えないようになったと思う。(1 回生)

○私のクラスの留学生は 25 名で、日本人は 4 人、残りのほとんどが韓国人であった。彼らとの会話はもちろん中国語であるが、韓国人は読解力はあるが、発音は激音なども混じり聞き取りにくい部分もあった。(2 回生)

2 語学研修(中国語・中国文化)及び小旅行について

A 中国語研修

○中国語がほとんど分からず不安だったが、クラスはとてもアットホームな感じで、授業も元気かつ積極的で活気があり、不安は一気に吹っ飛んだ。(1 回生 5 名／2 回生 2 名)

○授業で習った単語や、フレーズがその日の生活にそのまま生かせるのが楽しかった。日常生活で中国語を使わないと生活できないので一生懸命になれたし、使いながら学べたのも良かった。(1 回生 3 名／2 回生 4 名)

○中国語の授業は全て中国語で行われるため、かなりの集中力が必要になる。中国語の文法を中国語で説明されるのに最初は少し戸惑ったが、慣れてくると、ジェスチャーや雰囲気ですれずつ理解できるようになった。(1 回生 1 名／2 回生 5 名)

○先生やクラスの雰囲気が良く、楽しく勉強ができた。(1 回生 1 名／2 回生 3 名)

○初めよりは先生の言葉が理解できるようになったので、多少上達したのかなと思う。(1 回生 2 名／2 回生 2 名)

○だんだん慣れてくると知っている単語が増え、自然と会話が何となく分かるようになった。自分が日に日に成長していくのが分かり、成長するのがこれほど楽しいことだとは思わなかった。(1 回生 1 名／2 回生 1 名)

○クラスの留学生たちはみんなとても元気で、先生の問いかけにも積極的に反応していて、一緒に授業を受けていてとても楽しかった。日本では経験したことがない授業だった。(1 回生 1 名／2 回生 1 名)

○全て中国語で授業が進むが、初級クラスのリーディングと総合(文法・発音)の2人の先生は優しくてゆっくりと話して黒板にも書いてくれるのでとても分かりやすかった。先生は2人とも明るくてとても褒め上手だなあと感じた。分からないところがあると丁寧に教えてくれたし、またコミュニケーション上のいろいろなことについても話してくれた。(2 回生 6 名)

○9割ほどが韓国の人だったが、日本語と英語と中国語を織り交ぜながらも何とか話をすることができたこと、みんな仲良くしてくれたことなど、本当にうれしかった。(1 回生 3 名)

○中国に行って自分がどれだけ中国語の聞き取りができないかが分かった。大学で受けていた授業では先生はものすごくゆっくり話してくれていたんだなあとと思った。(2 回生 2 名)

○クラスでは最後の授業のとき、送別会をしてくれ、歌を歌い、皆と握手をした。(1 回生 2 名)

○クラスのみんな(韓国人がほとんどで、日本人数人とトルコ人1人)と先生とで、韓国料理屋へ食べに行ったりした。(2 回生 2 名)

○リスニング力が少し上がったのと、速く話そう、できるだけネイティブに近い発音で話そうとするようになった。また、現地でしか使わないような言葉、教科書には載っていないような言葉も学ぶことができた。本場の中国人に発音が良いと褒められたときは本当に嬉しかった。(2 回生 2 名)

○4人が中級クラスで授業を受けた。授業はとてもアットホームな雰囲気で、途中から加わったけれど、先生もクラスメートもとても親切で入り込みやすかった。(2 回生 2 名)

○留学生の受け入れ態勢はレベルに応じて13段階のクラスに分けるなどきめ細かい対策が取られていて良かった。(1 回生)

○先生は、リスニング、文法、会話によってそれぞれかわり、1日午前中4時間ある中、2時間ずつ、1日目リスニング1・2時間、文法3・4時間、2日日文法1・2時間、会話3・4時間という具合で毎日変わっていった。(1 回生)

○日本の聴いているだけの授業スタイルとは大きく異なり、積極的に発言しないと自分の存在が消えていきそうなくらい盛り上がっている参加型の授業であった。(1

回生)

○日本ではある程度発音の誤りが許されても、現地の人に対しては通じないのだと思った。しかし、そのことで話し方を工夫したり、勉強のスタイルを変えなくてはいけないことなど多くのことに気づいた。(1 回生)

○最初の頃は、誰でも知っているような言葉でさえ、すぐに出てこなかったが、帰る頃には、「ありがとう」に対しては「どういたしまして」、「すみません」に対しては「大丈夫です」、「何階ですか?」に対しては「4階です」というような、対になる言葉がすぐに出るようになった。簡単そうに思えるが、実際にその状況になると意外と難しいものである。(1 回生)

○2週間で上達したと思うのは、中国語を聞き取る力である。北京に着いたすぐの時は、中国語が鳥の鳴き声にしか聞こえなかった。研修の後半では、単語の意味が分かれば内容が分かるのに・・・ということが沢山あった。授業中だけ中国語を聞くのではなく、中国語に囲まれて生活するという意味の大きさを知ったように思う。(1 回生)

○自分の名前さえ言えない全くとっていいほど中国語が話せない状態で参加したが、不安に思うことは全然なかった。中国で勉強すること全てが新鮮に感じられて、すごいスピードで自分の中に中国語が入って来る感じがした。1週間もすると、相手が言いたいことが何となく分かるようになるようになったり、単語が聞き取れたりして、片言だったけれど会話ができるようになって本当に嬉しかった。(2 回生)

○学習形態は中国人の先生が教科書を用いて教えるというもの。(1 回生)

○中国人教師と学生との日常会話の時間が非常に多い。(1 回生)

○先生は中国語でしか話さないの、時によっては何も分からないまま終わることもある。(1 回生)

○先生は明るく元気で、学生との関係が日本よりも親密であると感じた。(1 回生)

○教室の雰囲気はとても和やかで、一人一人が自由に質問する空気があった。(1 回生)

B 中国文化

○太極拳の先生は明るい人柄で、動きの真似をした練習だけでも面白かった。(1 回生 2 名／2 回生 5 名)

○太極拳は先生の説明が分からなくて見よう見まねでやったが、太極拳で大切な腰を使って動くという動作がほとんどできなかった。(1 回生 2 名)

○日本の武道同様、身体の運動と哲学が一体となった武術の文化が中国にもあることが分かった。(1 回生)

○書道や中国料理の授業も先生方が優しく、取り組みやすかった。(2 回生 3 名)

○中国文化については本当に楽しく貴重な体験をすることができた。映画鑑賞や市内観光で「中国の今」を、太極拳や書道で「中国の伝統」を、それぞれ見るのができたような気がする。また、中華料理の時には、油や砂糖が多かったり、餃子は全て水餃子だったり、日本で見る姿との違いに驚いた。(2 回生 2 名)

○中華料理は野菜炒めのようなものと餃子作りであった。野菜の切り方や餃子の包み方など全て本物のコックさん直伝で教えてもらい、ためになった。作ったものの味比べをしたのも楽しかった。(2 回生)

○特に映画鑑賞(中国映画)の時間が楽しかった。中国語字幕と英語字幕が同時に出てくる。芸術は国境を越えるものだと実感した。(2 回生)

○自然博物館と書道の時間が前後しており、博物館で見た「文房四宝」が授業でも取り上げられたことで自分の中での理解が深まった。(2 回生)

C 小旅行(北京)

○小旅行で最も心に残ったのは万里の長城である。(1 回生 7 名 / 2 回生 12 名)

○万里の長城は、写真では見たことがあったが、実際見るのとは感動の度合いが違った。自分の足で歩き、実際にその場に立って、そこに吹く風を感じることができたことはとても貴重な経験になった。(1 回生 3 名 / 2 回生 1 名)

○万里の長城は風が強く、予想以上に寒かった。マフラーと帽子、手袋は欠かせないと思った。(2 回生 7 名)

○階段が空に向かって続いているように見えたあの万里の長城の景色は一生忘れないと思う。(1 回生)

○バスから見た万里の長城は信じられないほど雄大で驚いた。(1 回生)

○故宮もその広さに驚いた。皇帝がとてつもなく大きな権力を持っていたことが分かる。(1 回生 5 名 / 2 回生 6 名)

○故宮博物館は左右対称の造りや大きさ、デザインの面白さが印象的であった。(1 回生)

○天安門も本当に大きくて壮大で感動した。中国の歴史を感じた。(1 回生 2 名 / 2 回生 3 名)

○早朝(6:30)、天安門の前で行われる国旗掲揚の儀式を見学し、日本とは違うなあと感じた。(2 回生 4 名)

○天安門で毛沢東の絵が掲げてあったが、よく教科書に載っているものであり、それを生で見るのができて興奮した。(2 回生)

○京劇やマジックも華麗な技の連発で本当に楽しめた。(1 回生 5 名)

○小旅行の間に食べた料理は、どの料理もおいしかったが、特に北京ダックに興奮した。(2 回生 5 名)

○北京で宿泊したホテルでは、2 カ所(小旅行中に宿泊した所と帰国前日に宿泊した所)ともバスタブが無かつ

たのにも驚いた。(2 回生 2 名)

○同じ中国なのに、天津とはまた違った雰囲気であった。(1 回生 2 名)

D 小旅行(天津)

○天津の自然博物館はとても大きく見るところが沢山あった。日本の侵略の展示もあり、やはり見逃せない事実で何処まで行っても付いてくる歴史問題なのだと痛感した。(2 回生 5 名)

○日本語科の学生さんたちと行った鼓楼や古文化街も興味深かった。(2 回生 2 名)

○狗不理での食事や買い物について思い出す。(1 回生)

3 中国で 2 週間生活して感じたこと

A 中国の自然・町並み

○中国は空気が乾燥していて砂っぽかった。手荒いした洗濯物は夜に干せば翌朝には乾いていて、日本で滅多に使わなかった保湿クリームが手放せないという状況であった。ベッドの近くに濡れたタオルを置いたり、バスタブに水を張ったりするとよい。乾燥のため、喉を痛めてしまった人が多い。マスクもあったほうがよい。コンタクトの人は目薬を常備しておくとうい。(1 回生 2 名 / 2 回生 14 名)

○緑がほとんどない。それを補うかのように電飾や店の看板がきらびやかであった。(1 回生 2 名 / 2 回生 7 名)

○中国はとにかく大きい。(1 回生 4 名 / 2 回生 2 名)

○中国はすごい勢いで発展しているのがよく分かる。大きな通りに面した場所は近代的なのだが、一歩路地へ入ればまだまだ壊れた塀が連なっていたりする。10 年程前は当時の日本の 30 年程遅れていると言われたらしい。現在は 10 年遅れ。5 年後はどうなっているのだろう。(2 回生)

○貧富の差が激しい。綺麗な高層ビルや高級マンション、住宅街があったと思うとその横はボロボロの家(崩れそうなレンガの家)や商店があった。また、道路を走っている車も、新車のようなピカピカの車もあれば、動いているのが不思議なくらいボロボロの車もあった。あまりにも極端なその光景がショックだった。(1 回生 5 名 / 2 回生 3 名)

○天津はとても学校が多く、師範大学の近くにも大学が 2 つあり、沢山の若者を見かける。学生の街という印象を強く受ける。そのためあまり物騒な感じはしない。実際、治安も良いらしい。(2 回生)

B 文化・人々・日常生活・風土

○中国についてまず驚いたのが、交通ルールの適当さである。車の運転があらく、隙間を縫うように走り、クラクションは鳴りっぱなし。中国では車は右側通行。道を

渡るのも命がけで本当に怖かった。「状況判断重視」で交通ルールが成り立っている。それでも、2週間、事故に巻き込まれることもなく、事故を目撃することもなく終わった。(1回生4名／2回生13名)

○店に入ったときなど、人々の無愛想さやまるで怒っているかのような表情に初めは戸惑いを覚えた。しかし、こちらが笑顔で挨拶すると笑ってくれたりするので、怒っている訳ではなくこれで普通なのだと次第に慣れることができた。(相手の笑顔を引き出すには、自分がめげずに笑顔で「謝謝」を繰り返すことである。)(1回生1名／2回生7名)

○2車線の道路を車が3列になって走っていたり、信号のないところで人が平気で道を横断していく様子は日本では考えられない。(1回生3名／2回生4名)

○トイレのドアもいちいち閉めない。無駄なことは省くという感じである。(1回生1名／2回生2名)

○人々は心がでかくて多少のことは気にしない。中国の人々はある種の遠慮や謙遜はしない。(1回生2名／2回生1名)

○トイレは慣れるまで多少時間がかかるかもしれない。(1回生1名／2回生1名)

○困ったのがトイレ。鍵がかからないのは日常茶飯事。鍵がかからないので中に人がいるのかいないのかを見極めることも難しく、なかなか入れないでいる間に現地の人に順番を抜かされ入られてしまったりした。また、紙がなかったり、水が流れなかったりしたことも多くあった。「大便禁止」の張り紙がついているところもあった。(2回生4名)

○中国で一番「しっかり考えていかねば」と思ったのが、貧富の差である。日本とは比べものにならない。大学の前の道を歩いている人を見る限りでも、きちっと整った格好をしている人もいれば、何日もお風呂に入っていないような真っ黒な人もいる。(1回生1名／2回生1名)

○交通手段としてバスやタクシーに乗ったが、タクシーは、日本人はボッタくられると聞いていたので、相当の警戒心を持って乗ったけれど、「韓国人？日本人？」から始まり、片言の単語で会話したりして、楽しい思い出になった。(1回生1名／2回生1名)

○普段の生活で困ったことは、こまかいお金になかなかできないということであった。100元札は使うことができない場合が多いので、あらかじめこまかいお金を用意しておくべきである。特に1元はよく使う。100元札を出すと店の人は必ず透かしを見て偽札かどうか確かめていた。(2回生5名)

○スーパーや本屋さんに入るとき大きな鞆は預けなければいけないことに日本との違いを感じた。(2回生4名)

○中国のトイレは噂に聞くほどひどくはなかった。むしろトイレを使用している人に驚いた。鍵が無いところやドアがうまく閉まらないところも多いのだが、そんなこ

とを全く気にせずトイレを使用している人がほとんどで、若い女性でも全く気にしていない風で本当に驚いた。(2回生2名)

○トイレに対して数々の伝説を持つ中国である。今は昔ほどではないと思うが、中国のトイレをなめてはいけない。ポケットティッシュやウェットティッシュを多めに持って行くのがよい。特に万里の長城では汚くて入れなかった。(2回生2名)

○土地も広いし人も多いので、とにかく自分は自分で生きていくしかない、他人のことをあまり深く構っている余裕はないということを中国の人は体得しているように見えた。といって人間が冷たいというわけではなく、縁あって知り合った人との一期一会の出会いは大切にするということだ。(1回生2名)

○友達と一緒にタクシーに乗って、伊勢丹やその周辺の屋台に行った。初めてタクシーに乗ったときは緊張したが、きちんと目的地に行ってくれ、快適であった。4人くらいで乗って割り勘をするとそんなにお金はかからない。(2回生2名)

○サービス精神が日本ほど行き届いていない。愛想の良い人、悪い人がはっきりしている。(2回生2名)

○物価が安いので買い物が楽しい。(2回生2名)

○食生活に慣れるのが難しい。中国の料理は油が多く一人前の量が多すぎて食べきれなかった。特にホテルや料理店の円卓のテーブルでの食事は量が多すぎて、最初の方に食べ過ぎてしまうと後から出される物には、既に満腹になってしまっていて、手が付けられなく、最後まで楽しめなくなってしまう。日本では出されたものは好き嫌いせず全て食べきるのが礼儀であると教えられたが、中国では残しても構わないというところに食文化の違いを感じた。(2回生)

○市場で、肉はそのまま吊してあり、魚も常温で管理していて、あまり衛生的だとは思えない。(1回生)

○中国で暮らしていて日本に帰ってきたら、窮屈で仕方がないと思う。日本には日本の素晴らしいところがあるが、それとは別に日本という国や日本人が小さく思えた。(1回生)

○中国では細かいことは気にしなくても何とかなるということを自然に受け入れ、その適当具合が心地良かった。何かと大雑把で、日本人のように人目を気にするようなこともなく、皆が気取らず自然体に近い状態で生きているように見えた。恋人たちは全く人目を憚らないし、公共マナーらしいものを見ることもなかった。交通ルールも適当で、それでもうまく機能しているのが中国だなあと感じた。(1回生)

○レストランではみんな食べ物を大量に残す。中国には中国の文化があることは分かっているが、それだけの食料でどれだけの貧しい人を救うことができるだろうかと

考えずにはいられなかった。(1 回生)

○衛生面など日本と比べてかなり遅れているが、日本は潔癖すぎるように感じてしまうところもある。(1 回生)

○早朝に太極拳をする人の姿を目撃したり、逆さまにした「福」を掲げる店を見かけると、古き良き伝統を今でも引き継いでいるように思った。(1 回生)

○お年寄りの方は本当に尊い存在であるとされ、日本との違いを感じた。(1 回生)

○私が最初の頃、最も困ったのは、食事である。学生食堂のにおい、味が駄目で、近づくのさえ苦痛だった。しかし、ホテル 1 階のレストランは、すごくおいしくて、5 日目からは、常にそのレストランで食べていた。学生食堂に比べて値段は高いが、店内の雰囲気などからも一番勧められるレストランである。(2 回生)

○値切り交渉は中国語のとてもいい勉強になると思った。友達と一緒に頑張って半額以下に値切って買ったおそろいのチャイナドレスはいい思い出だ。(2 回生)

○中国では至る所に怪しげな日本語があるのが面白かった。例えば、看板に「チセイナドス (チャイナドレスのこと)」と書いてあったり、化粧品売り場の中には「ラベンダーマダニ取り」という意味不明な商品もあったりした。(2 回生)

○中国で一番気になったことは人々が道端でよくつばを吐き捨てることで、とても不快に感じた。(2 回生)

○2 週間で一番感じたことは人の優しさである。2 週間で出会えた中国の人々はみな本当に気さくで親切な人ばかりであった。歴史的な背景もあり、日本人は嫌われているのではないのか、と思っていたけれど、全くそんなことはなかった。パン屋のおじさん、食堂のおじさん、料理を教えてくれたお兄さん、ホテルのボーイさん、マックスの店員さん、日本語学科の学生さんなど、沢山の人の助けをもらって感動し、思わず、人類みな兄弟だと思ってしまう。(2 回生)

○バスは 1 元なので上手に利用できれば大変便利な交通機関となる。(2 回生)

○支払いをするのに少しまごついていたら、店員の人が財布の中からさっとお金を持って行ってしまい、日本ではありえないことだと大変驚いた。(2 回生)

○歓迎会や歓送会もとても充実していた。歓送会では今までお世話になった方々にお礼をするために、みんなでテレサ・テンの「甜蜜蜜」を中国語で練習し、歌った。先生たちも手拍子を打って調子を合わせ、喜んでくれた。(2 回生)

○朝はパン屋さんでパンを買い、夜はホテルのレストランで食事をするのが多かった。(2 回生)

○近くのスーパーに水や食べ物を買い出しに行った。スーパーはとても役に立った。(2 回生)

4 異文化理解・国際交流について考えたこと

○学内のパン屋さんの店員さんとも仲良くなれた。帰国前日にパンを買いに行ったら「明日帰るって本当？」と聞かれ、別れを惜しんでくれた。写真を現像したら必ず送ろうと考えている。これはほんの小さな出来事かもしれないけれど、確かに始まっている国際交流である。(1 回生 1 名 / 2 回生 1 名)

○外国に来て、改めて日本というものを見つめなおしてみると、自分の日本語について、また日本人としての文化的教養について反省させられ、もっと修養を積み重ねなければならないと思った。(1 回生 1 名 / 2 回生 1 名)

○私が中国を学んだクラスは、中国人の先生が 1 人、イギリスと日本からの留学生が各 1 人ずつ、あとは韓国からの留学生で計 13 ～ 15 人ほどで成り立っていた。皆との交流は基本的に英語と中国語を通じて行った。言葉のみでお互いを理解することはできず、ジェスチャーを活用した。また、コミュニケーションには辞書も役立った。時間がかかったが、お互いを理解しようとしているのが感じられ、うれしかった。(1 回生 4 名)

○怖いと思ったのは日本と韓国の歴史である。韓国人々は私たちに憎悪を抱いてはいないが、「朝鮮人」という言葉を使う日本人にはとても大きな憎悪を抱いている。日本が韓国にしてきた歴史の根強さを実感した。(1 回生 3 名)

○日本語学科の学生たちと交流する機会があった。彼らは日本語で話してくれているのに、こちらは少ししか中国語が話せなかったのも、とてももどかしかった。(2 回生 3 名)

○クラスメートには韓国人が多く、年齢層は幅広かったが、皆積極的に話しかけてくれて、とても親しみやすかった。お互いの国の言語を教え合ったりして言葉が十分に伝わらなくても、楽しく過ごせた。(2 回生 2 名)

○昔のことだから私たちは知らない、私たちには関係ないとは言えない。韓国の友達と語り合って、戦争、侵略ということがどれほど深い傷を作るかということを考えていかなければならないと思った。(1 回生 2 名)

○日本語学科の学生と交流することができたのは本当に良かった。同世代の同じような立場の人と交流することは大変貴重で、一緒に食事をしたときに、ドラマ、アニメ、芸能などの話ができたし、どんなものに興味を持っているかや、どんな生活をしているかについても聞くことができて、とても楽しかった。(2 回生 2 名)

○日本と中国の間には様々な部分で複雑な問題を抱えているけれど、中国で日本のドラマ、アニメなどが放映されていることが日本文化の理解に役割を果たしてくれていると思った。カットや編集をされていたが、歌は日本語のままで中国語字幕だった。ドラマ「ビックマネー」やアニメ「ドラゴンボール」「エヴァンゲリオン」等を

見つけた時は驚くと同時に大変嬉しく思った。(2 回生 2 名)

○食の文化、トイレの文化、礼儀の文化、何をとっても日本とは大きく異なっていると感じた。ご飯は残すのが美德であるというのは、日本と正反対である。なかなか受け入れられなかった。トイレもそうである。今までトイレはプライベートルームとして使用してきた。それが、中国では「用を足す場」でしかなく、個人のエリアではないのである。最初は少し抵抗があったが、それも慣れてしまえばどうということではなかった。(1 回生)

○食堂の人たちも日本人留学生をすぐに覚え、いろいろと考慮して対応してくれた。(1 回生)

○日本を出たら、自分が意識しなくても相手からは日本人というくくりで見られるのだということを改めて実感した。(1 回生)

○今回の研修で改めて歴史を感じた。韓国や中国の人たちと、個人としては仲良く話すことができて、民族レベルの話になるとどこか隙間ができてしまった。国際交流はこのような隙間を埋めるために互いにもっとよく知り合うことだと思った。(1 回生)

○「郷に入れば郷に従え」ということを実感した。その環境に慣れることができた者が沢山の文化を吸収することができる。(1 回生)

○金銭感覚の違いには気をつける必要がある。日本人には安いと思うものを他国の人もそう思うとは限らない。せっかく仲良くなった友達でも、このような意見の違いで気まずくなってしまうこともある。(2 回生)

○最後の晩餐会でみんなで歌を歌った時に、涙で目を潤ませて喜んでくれたことはずっと忘れないと思う。言葉はうまく伝えられなくても、気持ちは伝わっているのだと感じた。(2 回生)

○中国に行くまではいわゆる反日感情を恐れていたが、その心配は全く杞憂に終わった。実際の中国人との出会いで考えが変わり、マスメディアから得た情報によって作られた先入観で相手に臨むのは危険だと思った。(2 回生)

○韓国人のクラスメートはいつも明るくて、気さくに話しかけてくれた。彼らが日本の歌手などに詳しいことに驚いた。(2 回生)

○スーパーでいきなり独学で日本語を勉強しているという人に話しかけられたのには驚いた。びっくりしたけど、嬉しかった。その人は日本人の友達がいっぱいいるそうで、他の国の人と交流するには、こういった自分から飛び込んでいくような勇気と行動力が必要なんだと感じた。(2 回生)

○よく会うなあという人が出てきたら積極的に自分から話しかけるようにして仲良くなった。会話は中国語や英語がほとんどであったが、一番通じるのはジェスチャー

だった。お互いの国の言葉や文化を教え合ったりして、楽しく交流した。国際交流で大切なことは、笑顔と積極性だと思った。(2 回生)

○価値観の違いなのか、写真を撮ろうとしている人の前を平然と横切ったり、並んでいる列で、日常茶飯事のように順番抜きをする中国の人々に対して、自分はつくづく日本人であると思った。(2 回生)

○留学生用のホテルにいたからか、中国人だけでなく韓国人やアメリカ人などいろいろな国の人と交流する機会があり、沢山の友達ができた。韓国人の友達と韓国料理の海鮮チゲを食べに行ったり、日本料理をごちそうしたりした。中国人の友達にはおにぎりとお味噌汁をごちそうして喜んでもらったりした。そのような大変有意義で楽しい時間を過ごす中で思ったことは、国によっていろんな考え方があり、価値観や仕草、笑い方まで異なるということであった。(2 回生)

○中国と日本との間の意識、価値観の差は結構大きいと感じた。自国の価値観に慣れてしまっている以上、他国の文化を全て受け入れ理解することは難しいことだと思う。しかし、今回の企画に参加して、言葉がうまく通じなくても、お互いがジェスチャーや表情を見て読み取ろうと努力し、コミュニケーションを図ろうと努力するのを見た時や、意思疎通がかなった時は何とも嬉しかった。(2 回生)

○互いに知るためには言語はある程度必要で、話し合えばそれだけ相手のことを深く知ることができる。そのような知識は文献では分からない生のものも多くあり、文化を知ることと言語を理解することの強い結びつきを感じた。(2 回生)

○自然博物館でのこと、日本の中国侵略についての展示室があったが、館員に「日本人と言われるのは何とも複雑な気分だった。また、買い物をするときやタクシーに乗るときは「韓国人」と主張すべしと言われていた。ぼったくりにあたりするからだと言うが、だったら、いつなら自分が「日本人」だと言っているのか悩むこともあった。(2 回生)

5 まとめ

○全体を通して、この研修で多くのものを得た。仲間、友人、歴史、思いやり、経験など、本当にかけがえのないものを得た。この研修に参加できたことを心から嬉しく思う。(1 回生 1 名 / 2 回生 5 名)

○たった 2 週間であったが、語学研修に参加して中国語のほかに、中国の文化、生活、交流、共同生活等、本当に多くのことを学んだ。(1 回生 1 名 / 2 回生 2 名)

○私は教育学部なので、今まで教師になることを目標に勉強してきたが、G さん(中国人)のオペレーターやそこで働く人々、中国全体を見て少し自分の視野が広がっ

たように思う。(1 回生)

○三重大から参加したメンバーの中でも学んだことは多かった。初めて会った人と一緒に生活し、いろんなことを話すことができた。いろいろ交流する中で日本人同士でも異なる価値観をもって生きていることを改めて実感した。(1 回生)

○この経験は、大学生活において一番の思い出となった。自分の価値観が少し変わったようにも思う。2 週間ですごく成長することができた。(1 回生)

○今回の研修を通じて語学の学習以外にもたくさんのことを勉強でき自分を見つめなおす良い機会となった。(2 回生)

○これまですごく狭かった自分の視野が少しだけ開けた。勇気をもってこの語学研修に参加して良かった。(2 回生)

○生の中国に直に触れることができた。日本について改めて考えさせられる機会にもなった。今回、自分はやっぱり日本が好きなのだと分かった。中国も魅力的だが、それ以上に日本が自分の母国だと実感した。生まれ育ち、形成してきた価値観はやはり母国のものである。これから出会うであろう世界中の人々や国々に、まっすぐ顔を上げて向き合えるような人間になりたいと思った。(2 回生)

○今回の参加者は、学部も学年も専攻も様々で、普段ではあまり交流の無いような人と知り合い、友達になることができてよかった。また、日本を離れて中国という国を見ることで自分の日本観が少し変わった気がした。(2 回生)

○就職活動中の 3 年生は、参加するに当たってある程度の覚悟が必要である。この 2 週間は全く就職活動ができないと考えなければならない。ただ、何にも代え難い貴重な体験ができるし、事情を話せば配慮してくれる企業もある。(2 回生)

○この経験だけで「中国は〇〇だ」という観念を持たないようにしたい。見ていない部分、目に入っているのに認識していない部分が多くあるので、次は違う形で中国に行き、中国を見たい。(2 回生)

○中国はどんどん成長し、天津も日に日に様変わりしていく。昨年は出なかったお風呂のお湯が今年は何の苦労もなく出たし、大学の近くの「家世界」というスーパーマーケットもこの 1 年の間に開店したものである。(2 回生)

○次に参加するときには中級に進みたい、韓国の友達ができてハングルも勉強したい、お世話になったあの人にもう一度会いたい、もっといろいろな種類の料理を食べたい、という思いが強く、「これで終わり」の研修ではなく、「ここから始める」ための研修になればと願っている。(2 回生)

6 終わりに

紙数の都合上、すべての意見を網羅することはできなかったが、以上の学生の生の声によって実態の全容が少しでも浮かび上がれば幸いである。記述にあたり、1 回生と 2 回生に通じる共通のものを優先し、次に同意見の多い順に取り上げることにしたが、1 名でも紙数の許す限り載せることにした。

この研修の「魅力・意義・成果」は、ここに集約した学生たちの意見によって知られる。それを蛇足ながら一言に整理して示せば、次のようになるうか。

「魅力」は、広大な大地に生きる人々と交流し、その歴史や文化を直接に学ぶことができたこと。

「意義」は、語学学習を通して多様な価値観に触れ、人生観や世界観を広げ深める契機が得られたこと。

「成果」は、本来の目的である語学が上達したことは言うまでもなく、様々な異文化体験を味わったこと。

「成果」については「一言」では抽象的過ぎるので、その詳細を箇条書きで示せば、

- ①語学（特に聴解）が上達したこと、
 - ②友人（日本人及び外国人）ができたこと、
 - ③共同生活を通じて同じ日本人でも価値観が異なることを発見したこと、
 - ④自己の視野が広がったこと、
 - ⑤自己省察の機会となったこと、
 - ⑥中国観のみならず日本観にも変化が生じたこと、
 - ⑦概念的ではない実践的な異文化交流ができたこと、
 - ⑧中国の大地・歴史・文化に直接的に触れたこと、
- とまとめられよう。

文 献

三重大大学教育学部国際交流委員会 第 1 回天津師範大学
短期語学研修報告書 2004 年 5 月

三重大大学国際交流室／教育学部国際交流委員会 第 2 回
天津師範大学短期語学研修&文化交流報告書 2005
年 5 月